



新連載!

～今後日本の犬社会が目指すものは?～

ドイツ・犬物語 ① 「動物園に連れてって!？」

この号より新しく連載ものの
エッセイをお届けします
どんな話題が飛び出すか…
楽しみ楽しみ♪

ドイツのことを少しは知っているつもりでやって来たのだが、アルバイトを始めた事務所の女性秘書が、当たり前のように犬を連れて通勤してくるのには本当に驚いた。犬種はアイリッシュ・セターだったように思う。

昼休みに近くの公園に散歩に行く以外は、彼女の足元や廊下で静かに寝そべっていた。でも、彼女が帰り支度を始めると、盛んに尻尾を振って喜んでいたので、やはり退屈していたのだろう。人間だって会社がそんなに楽しいわけではない。

でも同じ階にもう一人、時々犬を連れて来る人がいたので、「犬連れ出勤」はドイツではそれほど珍しいことではないのだと知った。

その後、大学の構内では「犬連れ登校」をする学生にも出会っている。教室に一緒にいらさせてもらってはいたが、その犬には講義が難しすぎたのだろう。さすがに居眠りをよくしていたようである。

犬連れ出勤や登校が可能なのは、周囲の理解があってこそだが(人間の子でも日本では大騒ぎなのだから)、犬が地下鉄や電車に乗ることが日常化しているのも、その理由だろう。

通常の切符で「犬1匹までは持ち込み可能」となっているため、たまたま乗った車輦に犬が数匹乗り合わせていることも、決して珍しくはない。

まだあまり乗車経験がないせいか、飼い主の方を不安そうに見つめている犬もいれば、落ち着きはら

ってグーグー寝ている犬もいる。もちろんこの犬たちが皆出勤というわけではなく、森に散歩に連れていってもらって幸せな犬、飼い主の買い物に付き合われている犬など、乗車目的はいろいろだ。

その結果、犬の行動範囲はおしなべて広がる。銀行、美容室、花屋さんなどどこでもOK。ここベルリンには、ドイツ国内でも珍しいのだが、犬も一緒に入園出来る動物園だってあるのだ。最近ハイエナに犬が噛まれてちょっと問題にはなったが特に待遇に変化は無いようだ。

街中の食料品を扱うお店には入れないが楽しい青空市場にはお供ができるし、レストランやカフェにも犬連れ客は多く、どの店にも犬の飲み水が大抵用意されている。



青空市場のチーズ屋さんでお買い物

各種パーティーや結婚式などに参加する犬もいるし、休暇には飛行機や汽車に乗って海外旅行のお供をする犬も珍しくはない。

自家用車に犬を乗せて旅行するのは、もうずっと昔からやって来た日常的な光景のようだ。



避暑地の湖で水遊び

もちろん、人出の多い所やレストランなどに連れていくには、それなりの躰がされているのが前提だ。飼い主の方のお行儀も良く、決して食べ物を皿から取り分けて犬に与えたりはしないのだ。

一緒に生活し、一緒に遊ぶ。それがドイツでの人と犬の共生のあり方のようだ。

こうしてみると、ドイツの犬は、日本の犬にくらべ、はるかに多くの色々な経験を積み、見聞も広く知識も豊富そうだ、ぜひ一度、動物園見学の感想などを聞いてみたいものである。

池永記代美(ベルリン在住)

親子セミナー「犬と仲良くなろう！」(夏休み特別企画)

8月29日(水) 1時～3時 商工会館 会議室にて

共催：兵庫県動物愛護推進員／芦屋動物愛護協会

講師：兵庫県動物愛護センター職員

小学校4～6年生の親子を対象にした講習会を下記のような内容で夏休みの最後の週に開きました。

- ★犬と仲良くなるために
- ★「イヌ」ってどんな動物?
- ★犬の気持ちを読み取ろう!
- ★「しつけ」って何だろう?
- ★犬はどうやって学習するの?
- ★「スワレ」・「フセ」をしてみよう!



クララ

ピース

子供さんには犬のボディランゲージから犬を良く観察し、犬のサインを読み取ることの大切さを伝え保護者の方には、より効果的に犬のしつけをするために、学習理論についてお話をしました。最後に、動物愛護センターのモデル犬のクララとピースの2頭と共に、セミナーで学んだことを参考に服従訓練を体験しました。今回の参加者はすでに犬を飼っている方や、これから犬を飼おうとしている方がほとんどでした。このセミナーが犬とのより良い関係作りに参考になればと思っています。

兵庫県動物愛護センター

夏休みの自由研究に間に合ったかな?